

◇ 長谷川 かおり 君

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員、登壇を願います。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 12番、公明党、長谷川かおりです。通告に従い、一般質問をいたします。

1 項目め、ウポポイ開設に向けて周辺の環境整備及び環境の充実について。

(1)、ポロト湖畔での体験型カヌー、自転車貸付事業を実施しているが、利用状況と課題をどのように捉えているか。

(2)、外国人観光客に対する多言語化対応はどのように実施し、準備を進めているのか。

(3)、ポロト湖畔インフォメーションセンターの身障者トイレまでのアプローチ整備をどのように考えているのか。

(4)、電気自動車充電スポットの設置は考えているのか。

以上4点についてお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 戸田町長。

〔町長 戸田安彦君登壇〕

○町長（戸田安彦君） ウポポイ周辺の環境整備と充実についてのご質問であります。1 項目めのポロト湖畔での体験事業の利用状況と課題についてであります。令和元年度の体験型事業については、カヌーが6隻、延べ98人、また自転車は5台、延べ95人にご利用いただいております。近年では外国人観光客等の利用も増加していることから、窓口対応や設備等の充実を図るとともに、より一層安全、安心にご利用いただけるよう体制整備を図ることが課題と認識しております。

2 項目めの外国人観光客への多言語化対応状況についてであります。インフォメーションセンターについては、一般社団法人白老観光協会を指定管理者として窓口業務等を行っていただいているところであります。しかしながら、現在まで翻訳機等の設置はしていないことから、今後早期に外国語翻訳機器等の導入について検討してまいりたいと考えております。

3 項目めのインフォメーションセンターの身障者トイレのアプローチ整備の考え方についてであります。当該トイレにつきましては、インターロッキング部分の沈下を生じ、支障を来している状況にあることから、今後早急に改善を図ってまいりたいと考えております。

4 項目めの電気自動車の充電スポットの設置の考えについてであります。近年の電気自動車の普及に伴い、各所で充電スポットが散見され、町内においても虎杖浜地区に2カ所設置されている状況にあります。現状においては電気自動車の本格的な普及までには至っていないことから、当面は町として設置する考えはありませんが、今後の普及状況の推移等を注視してまいりたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 長谷川です。令和元年度の外国人利用者数です。ポロト湖畔のカヌーが6隻で、延べ98人、自転車は5台、延べ95人ご利用いただいておりますというのですが、これについて外国人利用者は何人ぐらい利用されているか把握されていますか。

その際に、サイクリングロード内に案内板を立ててコース内であることを周知しているのかお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 富川農林水産課長。

○農林水産課長（富川英孝君） ポロト湖のインフォメーションセンターの関係でございますけれども、インフォメーションセンター自体での外国人の数字の集計というのは行ってございません。ビジターセンター、キャンプ場の入り口のところです、そこにおいては外国人の集計をしておりますので、その人数は平成30年度で159人となっております。

また、サイクリングロードの関係につきましては、現在のところ特に外国語表記でサイクリングロードというようなことはしていないとなっております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 12番、長谷川です。ポロト湖畔に来る方は、体験を希望されている方です。戸惑うことがないように、わかりやすい案内板の設置などをお願いいたします。

それでは、カヌー、自転車の体験型の周知についてお伺いいたします。国立公園に入場している観光客の方や北側、駅のインフォメーションセンターへ立ち寄った観光客の方には体験型カヌー、サイクリングの周知方法をどのようにするのかお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 藤澤経済振興課長。

○経済振興課長（藤澤文一君） ただいま体験型のカヌー、それからサイクリングといったような、現在のアウトドア人気に押されてアクティビティーが人気を博しているところは押さえておりますし、外国人観光客のニーズも今後ふえていくだろうという予測をしております。そういった中で、今観光協会としてはホームページ等も言語化対応を行っているような状況でございますし、実際に来春から観光インフォメーションセンターが駅北に拠点を移すということになるかと思っておりますけれども、多言語対応ができる、観光案内のできる職員の採用とあわせて、翻訳する機械等の導入もあわせて行おうとしているという状況でございます。

それから、サイクリングロードにつきましては、自転車を貸し出すときにいってみるとロードマップ的なものをお配りして対応したいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 12番、長谷川です。その点は理解いたしました。

次に、外国人観光客の多言語化対応についてということですが、町長の答弁では導入について検討してまいりたいという考えでおりますということですがけれども、具体的に4月の開設に向けて、そういうところは準備されているのでしょうか。

○議長（松田謙吾君） 藤澤経済振興課長。

○経済振興課長（藤澤文一君） 外国語対応の施策でございますけれども、昨年から地方創生推進交付金という国の交付金を使って外国人観光客の受け入れ体制を整備しているところでございます。したがって、翻訳機の導入、こういったものは導入する意向であるということと、もう一つは台数等に限りもあるということと、先ほどお話しした外国語対応できる職員の人数にもやはり限りがございますので、指さしボードですとか、併用しながら対応していきたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 12番、長谷川です。現場で働かれています方から聞いた話によりますと、外国人観光客とのやりとりの中でカヌー経験者であることがわかると安心して貸し出ししているそうですが、インドの方が来られたときには言葉が全く通じなくて、ジェスチャーでのやりとりでカヌーの経験があると判断し、貸し出したことがあったそうです。その様子をうかがっていると、操作がままならず、事故の危険性があると判断し、体験を中止したという話を伺いました。命にかかわる重大なことです。多言語対応のタブレットの導入が進められているということですが、指示板ということもありましたが、その中には液晶画面の文字が小さく見えてうまく伝わらない方もいらっしゃると思います。ラミネート加工した多言語化対応の説明表示板を用意するなど、現場が混乱しないように検討していただきたいです。この点についてはどのようにお考えですか。

○議長（松田謙吾君） 富川農林水産課長。

○農林水産課長（富川英孝君） ウポポイ開設に伴いまして、インバウンドの皆様が増加することが想定できるという中でのご質問かと思っております。まずもって、窓口の対応については観光協会のほうに指定管理ということでさせていただいておりますけれども、そういった管理の中では利用者要望の把握と実現、あるいは利用者トラブルの未然防止策と対処法といったものを管理の中で文言として記載して取り扱っておりますので、そういった現場の状況についてはつぶさに情報交換しながら対応できるように努めてまいりたいと考えております。また多言語化の関係につきましても、できる限り、機械をもし導入できたとしても故障とか、そういったこともありますので、できるだけ多様な方法をもって多言語化対応に努めてまいりたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 12番、長谷川です。よく理解できました。

それでは、3項目めのインフォメーションセンターの身障者トイレのアプローチの件なのですが、これも現場で働いている方から伺った話ですが、在宅酸素利用の方がボンベを引きながら家族に付き添われていといれに向かっているところを職員が見かけ、足が思うように上がらず、れんがで足をとられそうになっていたため、家族が両脇を抱えるようにしてトイレに向かうお手伝いをされたそうです。私もその場の現状を確認してきました。インターロッキングのほかにも、通路とトイレに向かう段差解消のために手づくりのスロープも設置されていますけれども、地盤沈下のためか3センチほどスロープが下がっており、ここでも段差ができています。車椅子が後方に傾いている状態で、さらに段差を乗り越えるのは当事者、介護者にとっても負担を強いることとなります。ウポポイに一番近い観光スポットでもあり、利用者頻度が高いトイレでもあります。また白老町に観光に来よう、そう思うていただくためにも来春に向けての早急な対応が必要と思われまます。こちらのほうでも早急に改善を図ってまいりたいと考えているというお答えではありますけれども、4月に向けて、しっかりと地盤を固めての工事ということを検討していただきたいのですが、どのように町のほうでは。さらに、具体的に時期などがわかりましたらお知らせください。

○議長（松田謙吾君） 富川農林水産課長。

○農林水産課長（富川英孝君） ご指摘いただきましたインターロッキングの関係につきましては、不陸といえますか、段々になっているような状況について確認させていただいております。また、トイレ入り口につきましても暫定的なスロープの設置というような状況についても確認しているところでございます。そういった中でありまして、今後において早急というようなご答弁をさせていただきましたけれども、インターロッキングですと車椅子ですとか、そういう方については段差とか、どうしても支障になってくるということが考えられますので、今後については、今検討している内容としては全面コンクリートブロック舗装でバリアフリーに配慮した内容で整備できるよう検討を進めているところでございます。時期につきましては、今予算編成のさなかでございますので、可能でありましたら新年度になろうかと思っておりますけれども、少なくともそういった財源的な部分も含めてできるだけ早期に努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解いただければと思います。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） その点は理解することができました。

それでは、4項目めの電気自動車充電スポットの件なのですが、虎杖浜地区に2カ所設置されているという状況であります。マイカーでの来訪者の中には電気自動車を利用されている方もいらっしゃると思います。まだまだ普及率のほうはなかなか進んでいないということも承知しております。しかしながら、私も調べましたけれども、白老町は、虎杖浜のほうに2カ所ありまして、そのほか苫小牧市は糸井までなく、虎杖浜地区から糸井地区の充電スポットがあるところまでは45キロほど離れているのです。その中で、白老町内の

観光地を回遊されることを期待するには、やはり町なかに電気自動車の充電スポットを設置し、30分から1時間ほど充電している間に町なかを散策したり、くつろぐことができる場の提供が必要と思われます。その中で、今は今後の状況を注視していきたいということではありますけれども、例えば設置するとしたら、費用とか設置条件など、わかる範囲でいいので、教えていただきたいのですが。

○議長（松田謙吾君） 藤澤経済振興課長。

○経済振興課長（藤澤文一君） 電気自動車についての質問でございます。まず初めに、電気自動車全体の今の現状のお話をさせていただきたいと思いますが、2017年度の新車販売実績で申しますと、全国で2万4,000台、全体のシェアとしては0.55%という実態となっております。これはEVというハイブリットを除いた電気自動車ということでご理解いただければと思います。そういった中で、国土交通省においてもCO<sup>2</sup>の削減という観点からもこの導入を促進する動きをとっておりますが、2030年度の普及目標としては全体のシェアとしては20%から30%を目指しているといったような状況でございます。

それから、充電スポットの状況を申し上げますと、全国で約3万件ございます。北海道の状況で申し上げますと、北海道全体では747カ所でございます。それと、胆振管内の状況としては苫小牧市が最も多い状況でございまして26カ所、それから室蘭市が13カ所、伊達市が9カ所、登別市が6カ所という状況になっております。登別市については、公用車に一部電気自動車が導入されているということもございまして、庁舎敷地内に設置されている事例もあるということもございます。導入に係る経費でございますが、設置場所等によって大きく状況が変わりますけれども、導入当初のイニシャルコストとしてはおおむね330万円から、ちょっと幅ありますが、1,650万円ほどの費用がかかるといったようなところと、それに係るランニングコスト、これについては年間おおむね100万円ぐらいになるかなと捉えてございます。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

[12番 長谷川かおり君登壇]

○12番（長谷川かおり君） 12番、長谷川です。その点は理解いたしました。これからの2030年に向けて20%から30%のシェアを国でも目標としているというところですので、この動きを見ながらまた質問をさせていただきます。

2項目として幼児教育・保育支援について伺います。

（1）、若い世帯への子育て支援として保育サービスの充実が少子化対策の一つとして必要であるが、町の考えを伺います。

①、少子化対策として共働きや女性活躍に向けたさらなる保育時間の延長や、休日保育の充実を図る保育サービスの考え方を伺います。

②、子育て支援として幼児教育・保育が無償化となり、増加が見込まれる保育教諭の雇用現状と雇用不足を補うための町としての支援策について伺います。

○議長（松田謙吾君） 戸田町長。

〔町長 戸田安彦君登壇〕

○町長（戸田安彦君） 幼児教育・保育支援についてのご質問であります。1項目めの若い世帯への子育て支援としての保育サービスの充実についてであります。1点目の共働きや女性活躍に向けた保育時間の延長、休日保育の拡充についてであります。現在町内の3園において18時30分から19時まで、標準時間認定子供の延長保育を実施しています。中には利用者が少なく新年度の実施を検討している園もあることから、今後は利用ニーズに応じて対応してまいります。また、保護者が休日就労等のため、子供の預かりニーズがあることは認識しておりますので、休日保育の実施に向けては各園と連携、協力して実施できる体制を考えてまいります。

2点目の幼児教育・保育の無償化により増加が見込まれる保育教諭の雇用状況と雇用不足を補うための支援策についてであります。幼児教育・保育の無償化が始まったことにより就園した子はいますが、3歳児以上であることから、既に配置している保育教諭で配置基準を満たしている状況であります。また、未満児の受け入れについては、全国的に保育士確保が容易でない状況があるため、各園で求人募集するほか、町も保育士資格がある人材を園に紹介するなど、保育士確保の取り組みを進めていくことが必要であると考えております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 延長保育に関しては現在19時まで実施していて、春からも各園で父兄のニーズに合わせて取り組んでいくという方針で把握しているということで理解いたしました。

10月より3歳、5歳児の幼児教育や保育料の完全無料化、ゼロ、2歳児は条件つきでの無料化となりました。公明党のほうは、この新たな施策に対し、課題はないか実態調査を行っているところです。保護者の皆さんからは、保育料の負担が減り、大変助かっている。子供の教育費のために貯蓄に回すことができているなど歓迎の意見もあります。しかし、ごく一部ではありますが、兄弟3人、4人と通っている家庭では、以前は白老町も5歳児は無償にしていた。あとは、2人目は半額、3人目は無償という、そういうところで、1カ所の保育園に3人、4人と兄弟が通っていると新しい制度になりまして副食費を負担することが大変になっているという声も聞かれております。また、幼児教育を必要としているご家庭では、預かり保育も一部無償化となったため、働く時間を延長し、家計の助けにしたいという意見も伺っております。また、仕事が変わって土日出勤があり、夫に預け、仕事をしているなど、休日保育の要望も聞かれています。

白老町の抱える少子高齢化問題、人口減少を食いとめるには若い世帯の働きやすい環境づくりが必要であって、何らかの打開策も必要ではないでしょうか。休日保育を検討しているということではありますけれども、町としては実際の休日保育の実施についてどのよう

に考えているのか、アンケートをとっているのか伺います。

○議長（松田謙吾君） 渡邊子育て支援課長。

○子育て支援課長（渡邊博子君） 休日保育についてのご質問でございます。本町においてもこの数年で休日に子供を預けたいというようなニーズが高まってきているという把握はしてございます。今年度、次期子ども・子育て支援事業計画の策定のためにニーズ調査を実施いたしました。その中において、ほぼ毎週利用したいと回答があった方が4.3%、あと月一、二回は利用したいと答えている方が14%ほどいるということで、大体2割ぐらいの方が休日に月1回以上は利用したいという希望がある、そのような結果が出ております。これらのごことを受けまして、町としても休日保育の預かり体制を検討していかなければいけないなという認識ではおります。ただ、実際に預ける方がどのくらいいるのかということも見きわめていく必要があるのかなというところがございますので、実際の利用人数を見きわめて、体制としては1園でやるのではなく、各園で輪番制にして実施するなどということが一番効果的なやり方かなと現段階では思っているのですが、いろんな効果的な方法も検討しながら、今後は休日保育の体制について考えてございます。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 今のことは理解できましたけれども、実際パーセンテージではほぼ毎週は4.3%、隔週ではということで、大体2割の方がご利用されているということですが、実際の人数としてはどのような人数になるのですか、パーセンテージでなくて。あとは、町として実際に休日保育を行うに当たり、人数が何人希望するなら実施するとか、具体的な人数とかお聞きすることはできないのでしょうか。

○議長（松田謙吾君） 渡邊子育て支援課長。

○子育て支援課長（渡邊博子君） このニーズ調査は、就学前の児童のいる家庭と、あと就学後のお子さんがある家庭と2種類のニーズ調査を行いました。休日保育については就学前の子供がいるご家庭の質問の中で休日保育の実施を希望するかどうかという設問を設けておりました。回収数が209ということで、毎週利用されたい方のニーズが予定4.3%ということになります。今後何人いれば実施するかということではありますけれども、具体的な数字はまだ決めてはございませんけれども、いろいろと今回のこのニーズ調査や、あとは今実施しているファミリーサポートセンターでの休日預かり扱いの状況なども検討しながら実施を考えてございます。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 働き方が変化に富んでいる昨今、休日保育を実施することによって生産人口を上げることにつながるかもしれません。また、今はパートですけれども、正規職員に登用される可能性も出てくるかもしれない。町としての受け入れ側の柔軟な対応

が必要と思われま。今後もアンケートをとりながら、期間限定で試験的に休日保育を取り入れてみようとか、あとはニーズに応える形で窓口を広げていただきたい。そのように私は考えておりますが、町としてはどうでしょうか。

○議長（松田謙吾君） 渡邊子育て支援課長。

○子育て支援課長（渡邊博子君） 最近では休日にお仕事をされている方もふえているということもございますので、育児、また就労支援という観点からも両立できるような体制は今後とも考えていきたいと思ひます。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

[12番 長谷川かおり君登壇]

○12番（長谷川かおり君） それでは、前向きに検討ということで理解させていただきます。

それで、次の2点目の幼児教育の無償化により保育教諭の雇用状況と雇用不足を補うための支援策というところですが、未満児の受け入れについては全国的に保育士確保が容易ではない状況であるが、各園で求人募集するほか、町も保育士資格がある方を把握しているとか、そういうことを先ほど伺いました。人材不足で職員が疲弊しているというお話も聞いております。新卒の保育士を採用したくても、養成校を訪問しても白老町というだけで学生が来ない。町として養成校に出向き、窮状を訴え、学生の獲得に力を入れることはないのでしょうか。また、後方支援でほかの園長と一緒に養成校に出向き、白老町へ学生を獲得するという、そういうことを働きかけてはいないのでしょうか。

○議長（松田謙吾君） 渡邊子育て支援課長。

○子育て支援課長（渡邊博子君） 保育士確保のために養成校に出向いているのかというようなご質問でございますけれども、全国的に保育士が不足している状況ではございますが、現状として各保育園、白老町内の保育園については、利用したいお子さんがいたときの受け入れ体制については現状としては何とか確保できているというような状況でありまして、今は養成校に出向いているというようなことはございません。今後保育士が本当に不足する場合などはいろんな方法を考えていかなければいけないなと思っておりますが、そのための取り組みとして、まず町内に資格をお持ちの方も恐らく結構いるのではないだろうかと思っております。ですから、新しい人、若い人の確保だけではなくて、潜在的な保育士を掘り起こすような取り組みもしていく必要があるのかなと考えてございます。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

[12番 長谷川かおり君登壇]

○12番（長谷川かおり君） 潜在保育士の把握もなかなかできない、これからしていこうということですが、働いてほしいときとまだ働けないというニーズが合致しない状況では町内の保育士は充足していると言えるのでしょうか。目先のことでなく、きのう貳又議員のほうからも奨学金制度の創設というお話もありましたけれども、北海道の社会福祉協議会のほうで奨学金制度があるということをお伺いしたので、私も調べてみました。札幌



市以外で卒業後5年間働くと返済が免除されているという制度で、入学準備金、または就職支度金も支給されるという、そして札幌市以外で5年間働くと返済は免除になるというようなことが書かれておりました。しかしながら、白老町に戻ってくるという確定はなかなかできないと思うのです。潜在保育士というところではありますけれども、新しい新卒の学生を獲得して、しっかり育てて白老町に定住していただくという、働き手の一つというところでは新卒の獲得も必要とは思いますが、その点は今後白老町独自の就職支度金、または修学の準備金の創設など、そのようなことを考えはないのでしょうか。

○議長（松田謙吾君） 渡邊子育て支援課長。

○子育て支援課長（渡邊博子君） 潜在保育士の掘り起こし以外に新卒の学生に白老町に来ていただくというような取り組み、そういうような取り組みも大切だなと感じてはおります。ただ、現状として奨学金を独自で出すとか、あと就職準備金を出すとかという考えはないのですけれども、保育士確保のための全体的な取り組みの一つとして今後検討していければいいかなとは思っております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） 前向きな検討をよろしくお願いいたします。

それでは、幼児教育・保育の無償化に関する実態調査の中間報告によりますと、父兄側も事業所側も保育の質の向上を課題としています。保育の質の向上のために何が重要かと事業所側への問いに、ある機関誌によりますと処遇改善が82.9%、次いで職員のスキルアップ76.6%となっております。町として職員が研修を受けることができるように、きのうも貳又議員のほうからも質問があった中では、ぎりぎりの職員配置では研修を受けに行くことがなかなか難しい園もあると思います。その中で町としてのバックアップ体制の再構築を検討していただけるのか、そのところをお伺いしたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 渡邊子育て支援課長。

○子育て支援課長（渡邊博子君） 保育士の研修の質問でございますが、昨日の質問でも答弁させていただきましたけれども、町でも小学校の先生と保育士が合同で研修する機会があったりとか、あと療育関係の研修などもございますので、保育士の方が参加しやすい日時を設定していきたいと考えてございます。直接外に出るのではなくて、園に指導する方をお呼びして、実際にやっている保育内容について研究するような制度もございます。北海道において幼児教育の相談員という人が配置されておりますので、そのような制度も活用しながら保育の質を高めていただけるように周知をしまいたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 12番、長谷川かおり議員。

〔12番 長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君） その点は理解することができました。

最後の質問とさせていただきます。ある園からは何らかの形で支援が必要な園児が多く

なっていると聞いておりますし、職員の手が足りず、行政に相談しても改善できないでいるとの声も聞いております。現場の先生方は大切な子供たちの命を預かっているわけで、先生方の気持ちが疲れ切っていては笑顔もなくなり、子供たちによい影響を与えることはできなくなってしまいます。そこで、町として支援が必要なお子さんへ、また保護者へのサポート体制、ほかの機関との連携など具体的に行っていることがありましたら、お聞かせください。

○議長（松田謙吾君） 渡邊子育て支援課長。

○子育て支援課長（渡邊博子君） 支援が必要なお子さんがふえているということでございますけれども、実際に保育士の方たちは研修等で障がい児保育について学ぶ機会があったりとかはするのですが、なかなか研修を学んだだけでは対応が難しい面もございます。そのようなときには、町の療育機関の職員に直接その園のほうに行ってもらって、日ごろのお子さんの様子を見てもらって、それでどういにかかわりをすればいいかというようなアドバイスをすることもございますので、今後も関係機関の職員を十分に活用しながら、うまくかかわれるようにしていきたいと思っております。

○議長（松田謙吾君） これをもって12番、長谷川かおり議員の一般質問を終わります。